

2019年度

No 2 4月25日

松 籾



発行者

穴水秀人

「ありがとう」という言葉

4月21日（日）から2泊3日で実施された修学旅行、好天にも恵まれ、全員元気に帰校することができました。常に時間を意識しハードなスケジュールで、身体的にも厳しいこともありましたが、たくさんの思い出ができ、充実した3日間でした。

その中で、印象的だった言葉が「ありがとう」でした。最終日の朝、お世話になった「さと茂旅館」の方へ、実行委員長さんが感謝の言葉を伝えたわけですが、その中に「ありがとう」というフレーズが3回出てきました。心のこもったあいさつでしたが、それでもまだ伝えきれない気持ちが大きく、それを「ありがとう」という言葉に込めたような気がしました。ふとその時に思ったことが、「生徒たちは、この3日間でこの言葉を何回使ったのだろう。」そんな素朴な疑問が浮かびました。3日間の生活は、当たり前の生活ではなく、たくさんのハプニングや、思うようにならないこと、思いもよらなかったことなど、たくさんの経験をしたことでしょう。そのような困った時に、感謝の気持ちを込めて「ありがとう」と相手に伝えたのではないのでしょうか。あるいは、実際に言葉を伝えなくても、心の中に感謝の気持ちをもった場面がたくさんあったのだらうと思います。

「ありがとう」という言葉の語源は、「有り難い」つまり、有ること（すること）が難しいという意味です。とかく人間は、利己主義で自分中心に物事を考える面をもっていると言われることが、そうとも言い切れません。実際に、この修学旅行においても、生徒それぞれには役割分担があり、自分の知らない目立たないところで働いている友人に支えられていたことに感謝するべきだし、無事に帰ってくることを願っている保護者の方々の協力、宿舎の方々の心遣い、自主見学中に街中で助けてもらった運転手さんや通りすがりの見ず知らずの方々の優しさなど、数えきれないくらいの「おかげさま」があったからこそ、この修学旅行は充実したものになったのだと気付いてほしいものです。

さて、今日からまた普段の学校生活が始まります。是非、自分の周りに目を向け、「おかげさま」を探してみましょう。きっとあるはずです。気が付いたら、「ありがとう」という魔法の言葉をかけてください。さらにスムーズな人間関係ができ、相手ばかりでなく自分自身も毎日が楽しくなります。学級・学年ストーリーの新たな展開が、ここから始まります。